2019年3月24（日）

差枚	+1308枚	RANK	B

実戦機種

盗忍！剛衛門、ほか

実戦レポート

だいぶ前にも書いた気がするが、今回のホールは「並び順での入店」なので、絶対に打ちたい台がある人は2時間前ぐらいから並ぶこともあるらしい。さすがに立場上あまり早く並ぶのは避けているオレなんかは、もう長いことメイン機種からスタートしていない気がする。
しかし、そんな人たちにもチャンスがあるよう、バジリスクⅢのようなあまり競争率の高くない機種を全台高設定にしてみたり、バラエティコーナーにも十分に勝機があったり、といった粋な計らいが見られるのも、このホールの特長。余った空き台の中からでも、S級は狙えるぜ！

ということで、先月の「パチスロ偽物語」に続いて朝イチはまたもバラエティコーナーからスタート。選んだのは2台設置の「盗忍！剛衛門」だ。すると、1台目が序盤から初当りが超良好。盗目4pt、5ptといった「高設定ならば当てたい」チャンスを次々とモノにして、初当りだけならば設定6をも凌駕する展開だ。

ただ、最近の台は設定推測要素というものが豊富に存在する事が、時に足かせとなる場合もある。実戦の展開は全く問題ないのに、ART終了時の設定示唆画面だけが、好材料が一切出てこないのだ。この機種は、設定6がかなり分かりやすく作られており、既にそれは否定されている。つまり、設定4か設定5を見越して打つことになるのだが、設定5を意識するというのは、「奇数設定示唆を許容する」ことをも意味する。大多数の打ち手ならば、この経験はあるだろう。奇数って…つまり、設定1じゃね？　さっきまでの好展開は、ただのヒキ強じゃね？
そんな疑念が延々と付いて回るのだ。
ちょっと、もう1台も見てみようかな？　あわよくば全台高設定のシマならば、もう1台の方がもっと高設定挙動してくれるかもしれないし！

そんな、ポジティブなのかネガティブなのか分からない動機で移動した先で、たまたまここ一番のゲーム数上乗せが炸裂したおかげで何とか一撃2500枚のロングARTを貰えたから良いものの、さっきまで打っていた台で後任者が好調に初当りを重ねているのを見て、「あぁ、やっちまった…」と後悔は絶えなかったですよ。一方、自分の台はというと…うん、やっぱり高設定挙動は無いね！　っていうか、隣の剛衛門ばっかり見ていたけど、反対側の隣を見てみれば「パチスロ黄門ちゃま 喝」がとんでもない勢いで初当りを引いてる。あんなの、オレの知っている黄門じゃないぞ!?　結局、1つズレていたのは台よりも、機種の狙いでしたね、というオチ。
まぁ、今回プラスで終えられたのはラッキーでしたね。甘んじて「B級」を受け入れますわ。